講座クローズアップ

近畿大学医学部外科学教室 肝胆膵部門

難治性疾患の膵臓がんに挑む

近畿大学医学部の外科学教室肝胆膵部門を率いる松本逸平氏。「そこに山があるから」と、難治性疾患の膵臓がんの診療に力を入れ、患者啓発にも取り組む。2025年秋に病院移転を控え、さらなる飛躍を期す。

松本 逸平（まつもと いっぺい）主任教授

1993年大阪医科大学（現：大阪医科薬科大学）卒業。米ミネソタ大学留学、神戸大学医学部附属病院・病院准教授、近畿大学外科学教室肝胆膵部門准教授などを経て、2023年から現職。

―臨床面の特徴を。

肝臓、胆嚢、膵臓と三つの臓器について、悪性腫瘍から、胆石症や急性胆嚢炎といった良性疾患まで、幅広く治療を行っていることが、何よりの強みです。

もう一つの特徴は、とりわけ難治で、合併症を起こす割合も高い膵臓がんの専門性が高く、その診療、教育、研究に積極的に取り組んでいることです。

私が主任教授に就任した23年、近畿大学病院での肝胆膵の手術件数は過去最高の440件に達しており、このうち日本肝胆膵外科学会が定義する高難度手術は135件でした。24年は、前年を上回るペースで増え続けています。

膵臓がんについては、根治に至る人も増えつつあります。背景の一つが、手術の安全性向上で、機器の進歩に加えて、当院のように実績のある病院に患者が来院するようになったこともあります。

外科治療だけでは難しい場合に、薬物療法、放射線療法を組み合わせる集学的治療も進歩しています。さらに、当院では消化器内科や腫瘍内科とも連携して、早期診断が可能になっています。診療科横断的な協力体制は、非常に有用で、院外の認知も高まって、「膵臓がんならば近大に頼んでおけば大丈夫だろう」と、評判も高まりました。

紹介元に対する経過報告なども信頼につながります。また、学会活動や論文を通じて、積極的なアピールもしています。

―研究面は。

まず多施設共同試験で、日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）の膵がん外科治療が関連する試験に参加し、エビデンスづくりに努めています。一つの例が、再発予防を目的として術前・術後に抗がん剤を用いる試験で、特定の2剤の組み合わせが有効かを調べています。1剤は保険適用ではないため、近大病院では先進医療として実施しており、多くの症例を登録しています。

また、独自の研究としては、内分泌・代謝・糖尿病内科と共同で、膵臓切除手術後の患者に糖尿病が生じる頻度や最適な治療法も探っています。当院に着任以来、3～4編の論文をまとめました。

切除後に糖尿病や栄養不良を生じないようにするには、外科的な工夫もあります。肝臓と違って膵臓は再生能力が低いため、切除部分を小さくする機能温存手術にも取り組んでいます。機能を残せばQOLは高まります。根治性と両立するには、技術的に十分に確信が持てるよう知識を蓄えなければなりません。

―新病院に向けて抱負は。

近大病院は25年秋、現在の大阪狭山市から隣接する堺市に移転します。2次医療圏が変わるので、新たな試みも検討しています。例えば、膵臓がんの患者さんの会で、日頃は聞けない悩みや相談に対応する場を設ける予定です。既に24年4月から2回開催しており、好評を博しています。

また、膵臓がんは、いわゆる五大がんでないため、啓発する場が少ないのですが、8月に初めて市民公開講座を開催し、長年構想していたことが実現できました。新病院でも、啓発活動をスケールアップさせていければと思います。

肝胆膵部門は総勢10人ですが、手術数が多いため、もっと充足させたいと考えています。忙しい教室なので、困った時はお互い様という考えが浸透しています。

患者さんが多く来院されれば評判が高まり、症例数が増えて医師も増え、さらには研究も充実するという好循環に向かっています。そのためにも、情報発信力を高めていきたいと思っています。

● 近畿大学医学部外科学教室 肝胆膵部門　大阪府大阪狭山市大野東 377-2　☎ 072-366-0221（代表）　https://www.med.kindai.ac.jp/laboratory/hepato_biliary_pancreatic_surgery/